

耳の痛い話は聞きたくない?

男性向け講座

全国各地の女性センターや女性会館で、さまざま男性向け講座が開催されている。しかし女性向けならばお手のものの各センターも男性向けは試行錯誤の連続だ。「参加者が集まらない」と嘆く声も聞かれる。

一九九九年施行の男女共同参画社会基本法を受けて、各自治体で定めた行動計画には「男性向け講座の充実」を盛り込んでいるケースが多い。男女共同参画社会の実現のために男性の意識改革は不可欠だからだ。

この啓発活動の一翼を担うのが女性センター。基本法施行後、男女共同参画センターなどに名称を変更した施設も多いが、男性向け講座の開催を期待されている。今年六月に国立女性教育会館(埼玉県)が開いた「女性%。実施しなかった施設からは

関連施設職員のためのセミナーでも、男性向けプログラムづくりが取り上げられた。「女性向けは多くの経験、ノウハウがあるが、男性向けはこの施設も苦労しているようだ」と全国女性会館協議会の中村紀伊会長。

◆「もっと家事を」

全国約二百六十カ所の女性センターを対象にした同協議会の調査では、男性向け講座を二〇〇一年度に実施したのは51・6%。実施しなかった施設からは



男性向け料理講座は人気だが

■各地の女性センター■

敷居高く二の足

「過去に行ったが、参加者が少なく中止した」との回答が少なくない。男性には女性センターの敷居は高く、しかも「もっと育児、家事を」などと耳の痛い話を聞かされそう、男性の足が遠のくのも無理はない。

兵庫県立男女共同参画センターも、男性だけを対象にした講座は開いていない。夫婦間のコミュニケーション学など男女を問わず参加できる講座や、講演会などには男性の参加者もあるが数は少ない。逆に女性講師を招いた「起業セミナー」には、リストア時代を反映してか、男性の参加者が目立った。

◆実技型は人気

こうした状況から、各センターは実習や実技力を入れるなどの工夫で参加者増を試みている。内容別では、男女共同参画の問題を正面から扱う講義型の「男性の生き方・男性学など」と

「仲間を見つけれそう」の四つ。講師の選択も重要だ。参加者と同じ視点を持ち、経験を基に「こんな生き方がありますよ」と提案できる人に、男性は共感できるといふ。

開催日時も重要で、土曜の午後か水曜日の午後七時以降だと、働く男性も「行こうか」という気が起きやすいとか。

中村会長は「女性センターは女性の活動拠点としての役割が大きい、男性も参加できる場にしていきたい。男性向け講座のノウハウの蓄積はこれから」と話している。

◆講師選択も重要

「人が集まる男性講座の作り

人集めに躍起

方」をテーマに、国立女性会館のセミナーでワークショップを行った「CMの中の男女役割を問い直す会」の吉田清彦さん(尼崎市)は「やり方次第で人は集まる」と断言する。

ポイントは「おもしろそう」「楽しそう」「役に立ちそう」